

災害時の情報通信

トランシーバー実習

平成27年度日本災害医療学生研修

災害現場での「情報」の重要性

★情報を制する者は災害を制す

- 情報の収集と伝達は、**安全かつ有効**な活動に必須である。

★情報伝達の失敗が現場活動の失敗につながる

- 不適切な情報伝達や誤った情報は、現場活動を**誤った方向に導いたり**、災害**対応機関を危険に晒す**。

いろいろな情報伝達手段

- 情報伝達手段の**特徴**を理解し、適切に選択する。
- **複数**の情報伝達手段を準備する。

通信手段	マルチ性	移動性	広域性	情報量	操作性	携帯性	電源確保	確実性	秘匿性	経済性
伝令	1:1	○	×	×	○	○	-	◎	△	◎
携帯電話	1:1	◎	○	△	○	◎	○	△	◎	○
衛星携帯電話	1:1	○	◎	△	△	○	△	○	◎	×
拡声器・メガフォン	1:多	△	△	×	△	×	○	△	×	×
笛・太鼓・狼煙	1:多	△	○	×	◎	△	-	×	×	○
無線・トランシーバー	1:多	○	○-×	○	○	○	◎	◎	△	◎
メール・データ通信	1:1/多	△	◎	◎	△	△	×	△	△	×

トランシーバー (簡易無線)



トランスミッター & レシーバー

トランシーバーの特徴

◆単：複数の通信が可能である。

- 複数の相手に、同時に情報を伝達できる。

◆秘匿性が低い。

- 不特定の第三者に傍受される恐れが常にある。

◆同時通話は不可能である。(可能な機種もある)

- 一般に、電話の様な同時通話は不可能である。
- ある局が通話中は、他局は聞き役に徹する。



トランシーバーを**使える**

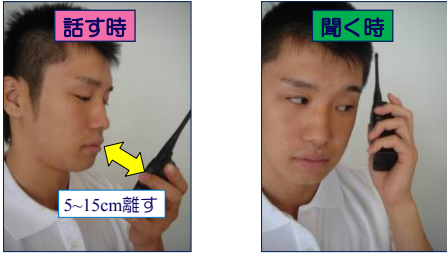
• 3つの”電”

- 電源を入れる。⇒音量調節。
- 電池残量を確認する。
- 電波(チャンネル)を確認する。



トランシーバーを**使える**

- トランシーバーの持ち方



7

トランシーバーで**伝える**

- 送信ボタンを押して、ひと呼吸置いてから話始める。
=頭切れ防止のため。
- 話すときは、送信ボタンを押し続ける。



8

トランシーバーで**伝える**

- 無線用語**を適切に使用すべきである。

- | | |
|------------------|----------|
| ▪ 「 どうぞ 」 | 次は受信者が話せ |
| ▪ 「 以上 」 | 通話終了 |
| ▪ 「 了解 」 | 了解した |

9

トランシーバーの**使用法**



10

具体的通信方法

- 通信を開始する時は、**感度試験**も併せて行う。

「本部、本部、本部」
「こちらは」
「〇〇病院チーム」
「感度はいかがですか？」
「どうぞ」

11

具体的通信方法

- 感度試験への返答例。

「本部」
「から」
「〇〇病院チーム」
「感度良好です。」
「どうぞ」

12

具体的通信方法

- その後の通信では、自分と相手のコールサインを適宜告げながら通信する。
(同一チャンネルを持つ局が複数あるため)

「〇〇病院チーム」
「から」
「本部」
「現場救護所に医療チーム1
隊の追加派遣を願いま
す。」
「どうぞ」

13

具体的通信方法

- 返答では通信内容を正しく理解した証として、**復唱**が重要である。

「本部」
「から」
「〇〇病院チーム」
「現場救護所に医療チーム1
隊の追加派遣の件、了
解。」
「どうぞ」

14

具体的通信方法

- 通信の終了時は、**通信を開始した側が**、**「以上」**と告げて終わらせる。

「〇〇病院チーム」
「から」
「本部」
「以上」

15

トランシーバーでの通信例



16

トランシーバーでの情報通信

— 具体例 —



- 想定：現場救護所で医療活動中
- 救護所：岩手医大チーム
- 現場活動指揮所(通称：本部)



【岩手医大チームから本部への通信内容】

- ①現在、救護所内の「赤」傷病者が4名
- ②医療チームをさらに2隊、至急応援要請

17



18

トランシーバー実習

STEP1 トランシーバーの基礎

- ①正しく起動しましょう。
- ②電源ボタンは、「**ON/OFF**」。(「**送信/受信**」)、「**緊急通報**」(「**送信/受信**」)
- ③自分と相手の**チャンネル**を確認しましょう。
- ④トランシーバーを正しく持ちましょう。両手と手の平がよいでしょう。
- ⑤話す時は口から5~15cm離す。深く呼吸を安定。
- ⑥送信ボタンを押してから**送信機**に話しましょう。(送信機が止まるまで)
- ⑦送信を停め、はっきり話しましょう。
- ⑧最初が「**おはようございます**」です。
- ⑨**送信** 自分と相手のチャンネルを知らせます。
- ⑩無線利便機能「**リボーン**」「**リブレイ**」に慣れましょう。
- ⑪送信を開始した際、「**注意**」で送信を停止しましょう。
- ⑫送信を受ける際も、**静聴**して下さい。「**注意**」が次第です。
- ⑬以上で送信を終了するのは、送信を**強制停止**です。

送信者

① 送信機が起動し、**送信機**が起動する。

② 送信機が起動すると、送信機が起動する。

③ 送信機が起動すると、送信機が起動する。

④ 送信機が起動すると、送信機が起動する。

⑤ 送信機が起動すると、送信機が起動する。

受信者

① 送信機が起動すると、受信機が起動する。

② 送信機が起動すると、受信機が起動する。

③ 送信機が起動すると、受信機が起動する。

④ 送信機が起動すると、受信機が起動する。

⑤ 送信機が起動すると、受信機が起動する。

STEP2 情報通信 基礎編

【ポイント】

- ①トランシーバーの持ち方、口との距離、話すスピード、声のトーンなど、伝達効率を高めるポイント。
- ②送信機、受信機、送信機/受信機/チャンネルを適切に操作する。
- ③送信機/受信機/チャンネルを適切に操作する。
- ④送信機/受信機/チャンネルを適切に操作する。
- ⑤送信機/受信機/チャンネルを適切に操作する。

無線利便機能 (以下の通り) を練習して下さい。

① 送信機/受信機/チャンネルを適切に操作する。

② 送信機/受信機/チャンネルを適切に操作する。

③ 送信機/受信機/チャンネルを適切に操作する。

④ 送信機/受信機/チャンネルを適切に操作する。

⑤ 送信機/受信機/チャンネルを適切に操作する。

① 送信機/受信機/チャンネルを適切に操作する。

② 送信機/受信機/チャンネルを適切に操作する。

③ 送信機/受信機/チャンネルを適切に操作する。

④ 送信機/受信機/チャンネルを適切に操作する。

⑤ 送信機/受信機/チャンネルを適切に操作する。

